

# 市政を問う

今定例会では12月5日、6日に一般質問が行われ、9人の議員が質問に立ちました。その主な内容を、紙面の都合上、1人2項目以内に要約して掲載しました。掲載事項は、発言議員本人からの寄稿によるものです。

詳細な内容は、会議録を製本の後、三原市議会事務局、市役所情報公開コーナー、三原市中央図書館に置いています。また、三原市ホームページでも閲覧できますのでご覧ください。(会議録の製本には、議会終了後おおむね3カ月を要します。)

HPアドレス <http://www.city.mihara.hiroshima.jp> → 市議会 → 会議録検索



寺田 元子 議員  
てらだ もとこ

## 今後の財政見通しについて

**問** 本市の長期財政計画

きだ。

**答** 26年度末で600億

では平成28年度から5カ  
年で40億円の財源不足に  
なる見通しだ。しわ寄せ  
は市民サービスの低下や  
福祉などに及ぶことは必  
至であり総合的に考えれ  
ば、新庁舎を含む複合ビ  
ル構想を市議会が否決し  
たことは極めて将来性の  
ある判断であったと思  
う。今後においても大型  
事業は厳しく精査し地方  
債残高を削減すべきでは  
ないか。

円以下にする目標があ  
る。若干難しいが抑制に  
努める。

## ごみ減量化策について

**問** 市民から「税金は高

くなり、ごみ袋料金が新  
たに発生し、住みにくい  
三原市になる」との声が  
寄せられている。4月か  
らの有料ゴミ袋制度を廃  
止し、市民とともに抜本  
的減量化策に取り  
組むべきではな  
いか。また、県  
内では18市町が  
古紙・布類をス  
テーションで無  
料資源化回収を  
しているのに今  
だに本市は実施  
していない。行  
政がやるべきこ  
とを先送りにし  
て有料指定袋に  
踏み切っていない

のか。ごみステーション  
での無料資源化回収のめ  
どをつけることが市長の  
リーダーシップではない  
か。

**答** ごみ減量化は市民と  
行政の協働作業であり、  
有料指定袋制度は排出方  
法を抜本的に見直すもの  
で、円滑な実施に向け取  
り組んでいく。

現在、旧久井町以外で  
は古紙・布類を燃やすご  
みとして処理しており、  
再資源化は大きな課題の  
一つであり課題解決には  
大幅な体制の見直しが必要だ。当面、集団回収や  
ストックヤードの活用な  
どをお願いしたい。

**答** 地方債残高は合併時  
の668億円が23年度末  
には631億円へ減少し  
ている。地方債は将来の  
健全な財政運営には必要  
だと考えているが、新規  
の借り入れと返済のバラ  
ンスを保ちつつ不漸的行  
財政改善を行い、健全化  
を図っていききたい。

**問** 慎重な事業の見直し  
でこれ以上の地方債残高  
を増やさないようにすべ



古紙類のステーション無料回収が急がれる





なかむら よしお  
中村 芳雄 議員

## 三原市の人口推移と観光経済について

**問** 平成17年合併以降、少子高齢化などにより、人口が減少傾向にあるが、今後の市政運営について問う。

**答** 人口減少は税収の減少による各種公共サービスへの影響、若者の減少による社会保障の担い手不足、地域活性化への弊害が想定される。現在「定住促進行動計画」を策定し、各種施策に取り組んでいる。

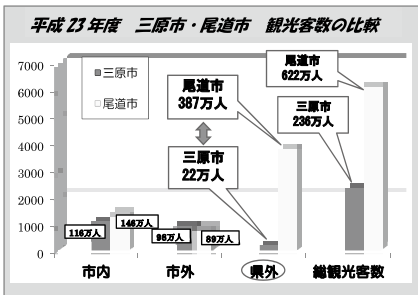
なかでも、雇用の確保、安心して子どもを産み・育てられる環境の整備は重要であり「住み続けたい・暮らしやすいまちづくり」を実現し、定住先として選ばれる街になるよう、市全体で連携し取り組む。

**問** 人口減少は地域経済の衰退とまちの活気を失う大きな要因である。

従って、地域経済の活性化に観光産業の整備が考えられるが、現状の尾

## 行政と市民の一体感の醸成について

まちの活性化や賑わ



道市の観光客数と比較すると、本市の取り組みが不足しているのではないかと。観光交流人口の増大は、新たなビジネスチャンスとなる。

**答** 現在「観光戦略プラン」を策定中であり、三原の観光地の認知度向上や、おもてなしの心の醸成など、市民と一体となり観光客誘致へ取り組みを図って行く。

いによる三原の魅力発信のためには、まち全体の一体感が必要である。その手段として、三原

参画により実現できれば、市民一人ひとりに達成感や充実感、更には、まちに対する愛着や誇り、ひいては、まち全体の一体感の醸成に寄与する事業と思うが。

**答** 現在、「観光戦略プラン」を策定中であり、450年祭の準備委員会を設け検討を始めた。

**問** 本市で「第九」を歌う音楽祭が開催できないか。開催までには、多くの市民団体等の連携や準備期間が必要であるが、開催が実現した暁には音楽を通じた市民の一体感の醸成に寄与する事業と思うが。

**答** 開催できれば市民の一体感の醸成・文化の振興・本市のPRとなることから、合唱団体などの自発的な取り組みや要望があれば、ポポロ等と連携し官民一体となった取り組みができるよう、支援等について検討を行う。



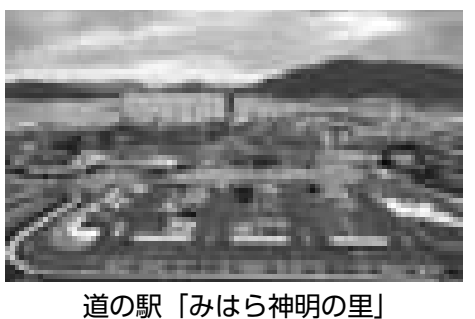
しんもと あきら  
新元 昭 議員

## 道の駅「みはら神明の里」について

**問** オープンして8カ月あまり、道の駅は三原の未来を切り開く希望の星となり得ているか問う。

**答** 利用者は、11月末時点で約27万人、売上額は2億9600万円となっており、3月末予測では約34万人、4億円程度とみている。PRとしては、中継カメラの設置や味の月替わりラーメンフェスティバル、カニ鍋祭り、県の「全力歓迎課」とともに、おいしい三原のタコPRイベント等、道の駅への誘客と周遊に努めている。

**問** 魅力づくりとフォロアアップについて、駅から臨む多島美は魅力的



道の駅「みはら神明の里」

**問** 予想以上の売上が見られるが、その内容はど

うか。  
**答** 物販が約46%、農産物が約18%、レストランが約12%等となっている。

**問** JAと連携を図るなど農産物が定着すれば、さらなる飛躍につながるのでは。

**答** 農業振興については、十分な意思疎通と連携は深めている。今後とも積極的な情報発信とにぎわいづくりに取り組んでいく。

## 小型合併処理浄化槽の法定検査について

**問** 検査手数料について、二重取りではないかとの疑問や不信の意見がある。その内容について問う。

**答** 浄化槽法により保守点検、清掃、法定検査の3点が義務付けられている。

保守点検、清掃、法定検査は趣旨、目的、内容も異なり、実施することで正常に機能し処理されるものである。理解と協力が得られるよう、一層の周知に努める。